

## 社 報

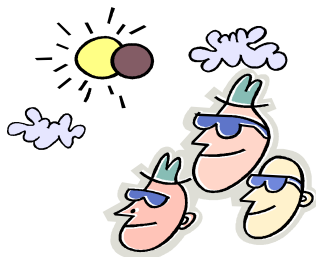


## 熱中症を防ごう

## 空調服を試験中

空調服という製品があります。これは作業服の腰あたりに、ファンがついていて、服の中に空気を送り、暑い時に出る汗をファンの風で蒸発させて体を冷やすというスグレモノです。

会社で試着した感想はかなり涼しいと感じました。一部の現場には、わずかですが、試着用を配布しました。実験して効果があるようでしたら、コストも考慮した上で、導入したいと思います。



地球の温暖化現象が続いているせい、毎年毎年、気温が上昇しているような気がします。今から約40年前、昭和30年代では最高気温も30度～33度ぐらいで、猛暑と言っても、今の36度や37度とは、大きな開きがあり、暑いと言ってもまだまじだった気がします。大阪の街で鳴き声が聞こえるセミも、今では朝から、「シャン・シャン」と熊セミがうるさいほど鳴いていますが、昔は、大阪に熊セミはほとんどいなくて、油セミかニイニイセミが小さい声で鳴いていました。

地球にとって、たかが数十年で温度が4度も5度も上昇するというのは一大事であるのでしょうか。私達、人間の体も生まれた環境とは、ずいぶんと違ってきており、それだけ体の負担も増えているはずです。

熱中症で倒れたり、最悪の場合に亡くなったりすることも、夏の温度が上昇するにつれ、炎天下で働く人々は、絶えず意識をしていなければなりません。

まさか自分が、と思わずに気分が悪くなったら、すぐに病院へ行かね

ばなりません。

良く暑くて気分が悪いから、少し涼しいところで体を休めれば、と言う話も耳にしますが、これは誤った処置で、取り返しのつかない結果を招くこともあるようです。

熱中症による体温の上昇は、涼しいところで休めば良くなるというものではなく、涼しいところで休んでも体温の上昇は続くそうです。その結果、ケイレンが起こって、手当てが手遅れになったりするケースもあるようですから、とにかく気分が悪くなったらすぐに病院へ行くのが最善の方法です。

熱中症に妙薬はありません、日頃から体調管理を行なって、良い健康状態で仕事をするのが、最大の予防策と言われています。仕事が終われば、リラックスして、良く睡眠を取り、体の疲れを開放することが重要です。

日本の夏もこれだけ暑いと、夏は仕事を置いてバカンスを取れるようになると良いのですが、現実の建設業では夢のまた夢です。「しっかり自己管理」でご安全に！

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

## 不幸にも同じ現場で働いていた鷲さんが……

不幸にも我々と同じ現場で働いていた、鷲さんが、墜落して亡くなりました。まったく残念なことです。詳しい話はわかりませんが、足場の組立中か整備中であつたようです。鷲さんは、鉄骨や足場など、我々より先行して作業場所の安全を確保してくれます。まさに、我々の生命線をつ

なくために、危険な仕事をする職種です。それが為に、現場でも一目おかれるのが鷲さんです。亡くなられたことは本当に残念ですが、我々もこれを自分に置き換えて厳粛に受け止め、職場から災害を無くすために、さらなる工夫と努力を怠ってはなりません。

## 2006年 安全成績

現場災害 H18.1.1-H18.8.3	
休業災害	----- 1
不休災害	----- 2
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 3
交通災害 H18.1.1-H18.8.3	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0